原子操作術で、来たるべき時に備えよう。

非対称ジメチルヒドラジン

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

成り行きで原子操作能力を手に入れた大学生、早川は超能力を存分に使って金儲けしたり、地下秘密基地を作ったりして自由気ままに遊び呆ける。だが早川はまだ知らなかった。この力が与えられたその理由を。

目次

第1話 …… 1
第2話 …… 4
第3話 …… 6
第4話 …… 11
第5話 …… 14
第6話 …… 19
第7話 …… 23
第8話 …… 27
第9話 …… 30
第10話 …… 34
第11話 …… 40
第12話 …… 44
第13話 …… 49
第14話 …… 53
第15話 …… 61

第1話

講義を終えて帰路に着く。商店街を横断し、惣菜を手に、アパートへと足を急がせる。
ガチャ。「ただいまー」
部屋には勿論誰も居ない。ただの口癖だ。
靴を脱いで部屋に入る。冷蔵庫に惣菜パックを入れ、鞄を床に置いたら予定表を確認。
「大学明日は休校か」
風呂場に入り、浴槽に栓をする。
[ピピッ、ピピピピッ、お湯張りをします]
給湯スイッチを押し、浴槽の蓋を閉めようとしたその時。
背後から気配を感じた。
「お主に力を授けよう、力の名は‥ そうじゃのう、原子操作とでも言おうか、とにかく、詳しい事はお主自身で確かめよ」
しわがれた声が背後から聞こえた。同時に、まるで金縛りに襲われたかの様に体が動かなくなる。
「‥‥ 誰だっ!?」
ようやく動いた体を振り向かせるも、そこには誰も居なかった。幻聴‥ では無い。
老人の居場所を探るため、部屋の中をしらみつぶしに探すも見つからない。第一、玄関の鍵が掛かっているんだ。一体どうやって入ってきたんだ?
頭の中に道教の仙人が思い浮かんだが、いやいや、そんな事はあり得ない。そんな物、存在するはずが無いのだ。
では先程の老人の術をどうやって説明する?
「原子操作」
机に手をかざしてそう呟いてみた。しかし何も起きない。
「原子操作」
今度は机を曲げるイメージで呟いた。
するとどうだろう、信じられない事に、机が上に反り上がった!そ

う、湾曲したのだ！
続けて念じる。元に戻すイメージで。
「原子操作」
信じられない事に、机が元通りに戻った。
あり得ない。全く持って信じられない。
だが実際に見てしまった。
そう、あの仙人は本物だったのだ。
しかし、なんの為に俺にこんな力を？
疑問が湯水の様に溢れる。
興奮冷めやらぬまま続ける。
「原子操作、この本のページをめくれ」
パラパラパラ。音をたてながら、自由自在に本のページが捲られる。凄い。
「原子操作、この本を浮き上がらせろ」
本に手を当て、引き上げる。
するとどうだろう、本はひとりでに宙に浮いたではないか！
夢が広がる。とても夢が広がる。
先ほどは大変無礼なことをしてしまい申し訳ございませんでした。3本指をついてお詫び申し上げます仙人様。
俺はありったけの感謝の念を込めて礼を述べたあと、これの有効な活用方法を考え始めた。
最初に思い付いたのは、カジノでのイカサマだった。サイコロなり鉄球なりを術で操れば儲け放題だ。一生働かずに済むかもしれない。
だがマジシャン、あれは駄目だ。本物だったら変な組織に拉致されそうになるから。
それどころか、この能力がバレたら国にでも連れ去られて何か良くない事をされるに違いない。
そうだな、運用方針はしっかりと決めておこう。
それから俺は友達に電話した。
「田中～、すまんなちょっと用事ができて飲み会行けなくなったん

やー」
「えーマジで?!何かあったん?」
田中は大学の友達で、大学の帰りに飲みに行くような仲だ。
だがいくら仲の良い友達といえど、裏切らない保証はない。
少々心が痛いが、田中にはこのことは秘密にしておく。
「いやーやり忘れとった課題があってな、今必死にそれやっとんや」
「相変わらずおっちょこちょいやのう、ＯＫ、わかったわ、ほなまた空いとる日があったら言うてや」
田中が半分笑いながら、半分呆れながらそう言って電話を切った。
田中、すまんな。俺は今からこの原子操作の能力について調べないかんのよ。調べてその有効な使い方を見つけないかんのよ。
そんなことを思いながら俺はスマホを置いて背伸びをしてみた。
さっさと自分を冷静にするためだ。下手に興奮しているとヘマをやらかすのがオチだから。
それにしても原子操作か。なかなかＳＦ小説っぽい名前だな。

第2話

「原子操作、水素と酸素の生成。」
風呂につかりながらそう唱える。
ブクブクっと泡が発生したところで、ライターの火を近づける。
瞬間、ポンと言う破裂音がした。
これは水素が引火した音、つまり水素爆発の音だ。
この能力を使えば水を、酸素と水素に分離出来るらしい。
この能力を応用すれば、最近政府が推進している水素車、アレの燃料を好きなだけ供給することができる。
酸素の工業的利用についてはあまり詳しくないが、こちらもなかなかの高値で売り捌ける筈だ。
さあ次行こう次。
「原子操作、シャンプーを各構成原子ごとに分離せよ」
瞬間、シャンプーが様々な色の元素に分離した。
中にはあまりよろしくない物も見え隠れしている。
淡黄色の斜方晶。比重は2．07，硫黄だ。人体にとってあまりよろしくない。おそらく中に入っていた硫酸ナトリウム系の洗浄剤が分解される過程で発生した物だろう。
変な化学反応を起こされても困るので、俺は排水溝にそれらを流してその日はさっさと寝た。

次の日。
冷蔵庫の中にあった缶詰を開けて食べる。
鯖の缶詰だ。4缶くらい開けたらそれに向かって念じる。
「原子操作、缶をぺしゃんこにして」
缶は音を立てて潰れた。
硬い金属もこの原子操作の影響を受けるのか。
感心しながら再度念じる。
「原子操作、缶を一つに」

缶同士が引き寄せられ、ギリギリという金属音を発した。
そして缶は原型を崩し、一つの塊へと進化する。
鉄とスズの合金だ。手に持つと少し重い。
なるほど、こんなこともできるのか。
原子操作、この能力は相当楽しそうだ。
ワルーイ事が次々と思いつく。
カジノでイカサマ、ポルターガイストの誘発‥‥

何故だろう、ワクワクが止まらない。
ニヤケが収まらないこの顔は今、きっと歪んでいるだろう。だが悪魔的思考は収まらない。
それどころか考えが加速する。
悪質なイタズラから悪魔的犯罪まで、この能力すらあれば全て可能になるだろう。都心部での大規模テロ、核戦争の誘発すら可能かもしれない。
だがあまり派手なことは行わない。
バレない程度に私財を溜め込んでやろう。
名誉は要らない。必要なのは金と物だけだ。
所得隠しも可能だろう。この能力さえあれば。
自分だけ、自分一人だけいい思いをするための施策を片っ端から絞り出し終えたら、今日の所は気持ちを整える準備期間としよう。
まずは可及的速やかにカジノを潰しに行く。
マカオまで出張だ。カジノを2軒ほど潰してその金を巻き上げてやろう。
そう自分に言い聞かせながら俺は高鳴る気持ちを抑え、この能力の猛訓練に励むことにした。

第３話

あれから一週間経った。
ここはマカオ。
カジノが盛んな中国の特別行政区だ。

俺はあれから軍資金を用意するために奔走した。
だが最終的には５０万円を用意した。
これで一発ドカンとかける。
そして俺は”ルーレット”に目をつけた。
ボールを操作すれば出る目を自由に操れるからだ。
ルールに則れば最高倍率は３６倍、ここに大金を一点掛けすれば、文字通り元手を３６倍に増やすことができる。単純計算で行くと、５０万？３６＝１８００万だ。
これなら楽して億万長者になれる。
意を決して、俺はカジノ店に足を踏み入れる。

予想通り中は喧騒に包まれていた。
英語や中国語が飛び交っていてとても騒がしい。
だがかえって好都合。絶好のイカサマ日和だ。

ディーラーがベルを鳴らす。
各人が自由にチップをテーブルの上に配置していく。
ディーラーがルーレット台を回し、
台にボールが投入される。
そう、ここはルーレットの会場。
マカオの有名財閥経営のカジノホテルだ。
ここの最低ベッド数は日本円換算で約１０，０００円。
小手調べに、１０，０００円分のチップを購入した。
ディーラーの掛け声とともにベットタイムが始まる。

俺は１８のマスにチップを掛けた。

チリンチリン♪
高速でルーレットが回転し、ボールが投入される。
ボールの軌道がふらつき始めたら、狙い目のマスに重なった瞬間強い力をかけ静止させる。
カランカランカラン♪
大当たりを知らせるベルが鳴る。
あっという間に３６万円分の勝ち。
だがこれからが本番だ。
５０万円相当のカジノチップを購入し、勝負続行。
偽札チェックを受けてから、大量のチップを受け取る。
次に俺が賭けたのは１６番。
当たれば３６倍、はずれれば全て没収。
５０万円がかかった大勝負が始まった。

ディーラーがルーレットを回す。

直ぐに、ボールは１６番に引き寄せられ、そのまま落下。
あたりから猛烈な歓声が上がる。
約１８００万円分の勝利。
あっという間だった。
３０秒もしない間に１８００万を獲得したのだ。
かなりの大金なので金銭感覚が狂いそうだ。
だがこんな楽な稼ぎ方が他にあるだろうか？
このままもう一発行きたいところだが、
しかし俺はかなり怪しまれている。
続きは他の店でやろう。
そう考えた俺は、
札束をバックに詰め込み、カジノを後にする。

２軒目の犠牲者となるのは、近くの大型カジノ店だ。
さっきの店から歩いて１０分くらいの場所にある。
繁盛している所悪いが、死んでもらおう。

札束でパンパンに膨れたバッグを背負い、全力で走る。
さっきから嫌な視線が向けられている。
スリや強盗にだけは会いたくない。
そして俺は逃げるようにその店に駆け込んだ。

陽気な音楽。
雰囲気は富裕層向けだった。
さっきまでの嫌な視線もピタリと止んだ。
ここなら大金をかけても怪しまれないだろう。
バックの中の札束を全て取り出し、チップに変換する。
１８００万円相当の香港ドル紙幣。
それだけの価値にふさわしいチップが渡される。
３００万円相当のチップが６枚。
紫の高級感溢れる高額チップだ。
チップを受け取り、一度深呼吸してからルーレット会場へと足を進める。
途中、事の重大さに怯え、緊張で手が震える。
だが焦るな。呼吸を整えて。必ずやれる筈だ。
この能力を信じろ。そうだ。全てを託せ。

ディーラーの掛け声と共に、
ベットタイムがスタートする。
陽気な音楽が更に焦りを加速させる。

手の震えが止まらない。
駄目だ、一回パスだ。一度落ち着こう。
手に握られたチップを離さない。
これ一つで３００万だ。全部で１８００万。
だが焦るな。全てうまく行く。
チリンチリン♪
ルーレットが回転し、ボールは３１の穴に落下。
ボールの挙動も前のとほとんど変わらない。
「ベットタイムでーす！」
掛け声と共に、８番のマスにチップを積み上げる。
驚く周囲。馬鹿馬鹿しいと言う奴もいた。
確かにそれはそうだ。
俺がかけたのは最も確率が低いマス。
当選確率は３６分の１。
確かに、普通なら馬鹿馬鹿しいと思うだろう。
普通なら金をドブに捨てているようなものだ。
だが俺は違う。そう、俺にはこの能力があるのだ。
チリンチリン♪
ルーレットが回る。狙うは８番ホールのみだ。
十分減速したボールが８番の上に来た瞬間、
力をかけ、金を騙し取る。

一周、また一周とボールが回転する。
もう止まる。そう確信した俺はボールに力を加えた。
下向きのモーメント。ボールの軌道を曲げる。

コトッ。
ボールは落下した。
８番ホールに。

「ヒューーッ！」「ブラボー！」

チリンチリンチリンチリン♪
辺りに歓声が巻き上がる。
ディーラーも客もみんな騒ぎ出す。
大当たりだ。ここ一番の大当たりだ。
１８００万の３６倍、６億４８００万の大当たりだ。
張り詰めた緊張が、一気に緩んだ。
掛けに負けた人間も、負けを忘れて大騒ぎ。
ハイタッチに胴上げ。辺りは混沌と化した。

裏方から、巨大な”塊”が運ばれてくる。
台車に乗ったそれは、よく見ると一つ一つが札束だった。
意識が遠くなるような量だ。
客がパシャパシャと写真を撮っている。
フラッシュで目がチカチカする。

第４話

その後、香港ドルを全て日本円に変換した。
福澤諭吉の塊を見た瞬間、
急に金銭感覚が戻ったのは内緒。
だがこれから大きな問題が発生する。
そう、
このような大金をどうやって日本まで輸送するかだ。
税務署に申告したならば穏便に済むだろうが、所得税で５割持っていかれる。
いや、でもよく考えてみてくれ。
こっちが苦労して稼いだ金を、累進課税とかいう社会主義国もドン引きするような名目で分捕るのは流石に酷いと思うの。
俺はドケチである。勿論、納税の大切さは十二分に承知しているのだが・・・ 流石に５割は鬼畜すぎる。
こりゃ富裕層も租税回避するわ。
身を持って味わってようやく分かった。

密輸しよう。

飛行機での密輸はどうか？
いや駄目だ、普通に捕まる。
漁船での密輸は？
バレそうになれば投棄して、後から回収すれば良い。
ビザは１週間分取っている。
金に物を言わせて漁船を借用し、国境警備艇の目をかいくぐりながら日本まで輸送し、海岸に埋める。
それから香港に戻り、漁船を返却。
その後何事も無かったかのように飛行機で日本に帰り、埋めた現金を掘り返す。香港から日本までの距離はわずか１５０キロだ。
理論上はこれでいける。

だがそこには大きな障害がある。
１に国境警備艇をどのように避けるか、
２に漁船をどこで借りるかだ。
漁船は多分簡単に貸してくれるだろう。
だが国境警備艇、奴の目は誤魔化せない。
更に奴には海上捜索レーダーがある。
レーダー反射を抑える電波吸収体の
コーティングが不可欠だ。
そして速力も。２０、いや３０ノットは欲しい。
漁船でそこまでの速力は到底出せない上、
レーダーサイトにバッチリ映ってしまう。困った。
となると、自分で船を作るしかないのか。

原子操作では金属加工も出来る事は実証済みだ。
材料さえあれば、適当な船くらい組み立てられるはず。
エンジンはそこらの車の物を買えばいいだろう。
精密機器だけは買って、それ以外は自前。
悪くない。
確か近くに中古バイクの売り場があった筈だ。
やれるだけやってみよう。
俺はレンタカーに金を押し込み、銀行を後にする。

「ええ？バイクのエンジンだけ？ああええよええよ、無名なメーカーのやけど値段は安いで」
　友好的な店主に連れられて、店の奥まで案内される。
「これや、俺ではこれがどこのエンジンか良うわからんわ、その代わり出力はものすごいはずやで」
「推奨オクタン価は？」
「９５や、ガソリンスタンドのやつをそのまま使って構わんわ」

「値段は？」
「１，９００香港ドル（２５，０００円）や、整備無しでそのまま使えるで」
「よし買った」

そんなこんなで裸のエンジンを入手した。
ギアボックスは無し。水冷式、並列４気筒。
恐らく中国製のデッドコピー商品だろう。
後はこれをどう改造するかだな。
だが機械工学は大学での専攻科目だ。
こういうのだけは得意なのだ。

それと電波吸収体について。
アレにはカーボンマクロコイル（ＣＭＣ）を使おう。
ＣＭＣは約０．０１～１μｍのピッチでコイル型に巻いた炭素繊維の名称で、これには電磁波を吸収する特性がある。つまり、電磁波を吸収して、レーダー反射を抑えるというスグレモノなのだ。
コイツを船体の表面にコーティングする事によって、レーダーサイトに映りにくくなる。
イージス艦クラスのレーダーなら話は別だが。
とにかく、ＣＭＣの生成実験は後でやる事にして、とりあえずはホームセンターで大量のアルミ板を買おう。
お話は船体パーツを作ってからだ。

第５話

そこそこの数のアルミ板を確保した。
そんな事をしている間にもう夜に。
取り敢えずホテルにでも泊まろう。

予め目星を付けておいた高級ホテル、
”広州飯店”にチェックイン。
料金は先払い。一泊１，６００香港ドル（２１，０００円）と少々値が張るが、部屋はとても広く、サービスも充実している。
資材や現金は車内においてきたが、タワーパーキングに停めてあるのでまず奪われることはないだろう。
下手すると室内より安全だ。

ディナーを食べたら部屋に戻り、船舶の構想を練る。
求めるのは一人乗りで、航続距離１５０キロ以上であること。最高速度は３０ノットあれば嬉しい。
レーダーの反射断面積を最小限に抑える事も重要だ。
エンジン馬力や燃費の都合も考えて、船体の長さは７メートル以内に抑えたい。

アルミの塊を変形させて、イメージを現実に変えてゆく。船舶工学は専門外だが、最善を尽くそう。

風呂に湯を張り、模型を浮かべて実験する。
双胴船は駄目だ、大きすぎる。単胴船にしよう。
上部構造物には強烈なステルスコーティングを。
分厚いＣＭＣ板を貼り付ける。
搭乗席は天井付き。空調設備は無し。
スクリューは５枚羽、鋼鉄製。
エンジンのギアは無し。進むか止まるかの２択だ。

更に巨大な燃料タンクを装備。
少々の機動力を犠牲にして、多大な航続距離を得る。
それに6億円の隠し場所を内蔵。
アルミ板で完全に覆ってしまうのでまずバレない。
更に万が一の為に6億円の切り離し装置も完備。
浅瀬なら投棄しても良いかも知れない。
だが回収が非常に面倒だし、最悪底引き網に引っ掛かると全て奪われてしまう。正直やりたくない。

そんなこんなでモデルの完成だ。
外見の雰囲気はモーターボートだ。
小型で高速、高機動な筈だ。
後はこれを組み立てるだけ。
だが計算上、アルミがかなりの量要求される。
到底車に積める量じゃ無い。
ピストン輸送を覚悟しよう。
燃料はガソリンを使用する。
フルで給油すると大体４００リットル程入る。
船体の殆どが燃料タンクだからこそ出来る技だ。
ガソリンはガソスタでチャチャッと貰ってこよう。

ボートの出来に満足したので、俺は寝る事にした。
とても寝心地の良いベッド。
仙人に感謝の祈りをしてから眠りにつく。
枕元には日本語で般若心経が置いてあった。
中々コアだなぁ。読む人居るのかしら。

次の日の早朝、ホテルをチェックアウト。
ホームセンターが開くまでの間、ガソリンを給油する。

ガス缶に直接給油。
日本だと咎められるだろうがここは中国。
その辺りは結構寛容なのだ。

４００リットル分のガス缶を車に詰め込み、ホームセンターに直行。アルミなら何でも良い。

それから車を海岸にまで走らせる。
産業廃棄物にカモフラージュしてアルミとガス缶を隠しておく。
ピストン輸送だ。あとはこれを４回繰り返す。
このようにして必要量のアルミを確保した。
レンタカーを返却したら作業開始。
そしてここは無人の海岸。人は殆ど寄り付かない。

「原子操作、不純物の除去」

アルミを操作、不純物を排出し、純粋なアルミを作り出す。
「原子操作、船体の整形」
抽出されたアルミを変形、あっという間に船体を作り上げる。
「原子操作、スクリュー、舵の整形」
鋼鉄製のパイプを、スクリューや舵に変形させる。
「原子操作、ＣＭＣ板の作成」
１つのガス缶の炭化水素を分離、炭素のみを取り出し、水素を放出する。さらにこの炭素をカールさせ、結合させる。
ＣＭＣ板の完成。
それからホームセンターで買った電子機器を組み上げて、エンジンにギアを噛ませ、スクリューと完全に結合させたら完成。舵も搭乗席から操作できるよう工夫する。
「原子操作、６億円を浮かせて」

現金に上向きのモーメントを加えて宙に浮かせ、そのまま船内に格納する。
「原子操作、給油して」
ガス缶がひとりでに浮き上がり、船の燃料が補給される。空のガス缶は地面に転がった。

完成だ。全長6メートル、幅2メートル。
上部構造物は強烈なステルス設計となっている。
これでレーダーには映るまい。
準備でき次第出港だ。
操縦席に乗り移りドアを締め、それから念じる。
「原子操作、船を浮かせて」

浮き上がった船は直ぐに浅瀬に打ち付けられる。

派手な水飛沫。だがこっちは一切濡れてない。
操縦席は完全密閉式なのだ。
ホームセンターで買った電気スイッチを押す。
瞬間、エンジンプラグに点火された。
エンジンから爆音が鳴り響く。
消音装置を組み込んでもこの音か。
なかなか酷いな。
だが出力は確かな物だった。
船は急加速。波を切り裂きながらグイグイと進む。
ＧＰＳを頼りに、進むべき道を割り出す。
最短ルートは北北東方向だ。
季節的にも潮の流れに乗れるはず。

舵を切り、全速前進。
沖縄方面は穏やかな海だから安心だ。
難破の危険はほぼないだろう。

長い航海が始まった。

「原子操作、バッグから弁当出して」
ホテルで買った弁当だ。
試食して美味しかったから買ってきた。
割り箸を割って木の蓋を開ける。
中身は日本の物とあまり変わらなかった。
台湾料理に近い独特な香りがするが。

暫くリラックスしていたら、もう島が見えてきた。
どうやらレーダー網を突破したらしい。
恐らくあれは与那国島、目的地だ。

近くのモーターボートより速度が速い。
これはなかなかに強烈なエンジンですなぁ。
感心しながらボートを岩壁に移動させ、原子操作。
人が居ないのを確認してから、近くの硬質な岸壁に穴を開け、現金を埋め込み、元に戻す。
偽装し終えたらそそくさと退散。
帰りには辺りの写真を撮って場所を記録しておく。
燃料は半分も減ってない。このまま無給油で帰ろう。

舵を切り、香港島を目指す。
このまま中国軍の警備艇にバレなければ完全犯罪。
あとは祈るだけだ。

第６話

３時間ほど経っただろうか。
国境も越えて安心しきった頃、ようやく島が見えてきた。
奥にビル群が見える。
密輸は成功した！
有頂天になりながら、ボートを砂浜に乗り上げる。
「原子操作、ボートを解体」
ＣＭＣ板のみは炭素に戻し、それ以外はスクラップにして放置する。
さあ、日本に帰ろう。
飛行機の座席を確保するため、俺は空港へと走った。

日本に帰るとまず一番に実家の車を借りた。
あとはフェリーで与那国島まで行き、６億円を回収するだけ。

一刻も早く回収しなくては。
誰かに取られたらどうするんだ。
焦燥に駆られながら当日券を購入する。
チケット代など大した出費ではない。
フェリーに車を載せ、客室へと向かう。
出港の汽笛が待ち遠しかった。
待ち時間、与那国島の衛星写真をチェック。
どの車線を使えば良いか予め調べておく。

フェリーはすぐに到着した。
乗り場から車を降ろし、公道を走る。
最短距離はこの道で合ってるはずだ。
１０分ほど走らせると、目的の岩場が見えてきた。

人は何処にも居ない。無人だ。
車を路上に放置し、浅瀬に飛び込む。
それから必死に泳ぎ、岸壁まで辿り着いた。
全身ビシャビシャだ。
ここの海はお世辞にも綺麗とは言えない。
岩にしがみつき、原子操作。
岩の表面を切断する。

6億円が見えた。
取られてない！
喜ぶ間も惜しんでその塊を背負い、浅瀬へと這い上がる。
6億円をトランクに押し込み、安堵する。
回収成功。
全身ビチャビチャで、髪に汚い藻が絡みついているが、それでも俺は勝ったのだ。

「原子操作、汚れを分解」
海水や絡みついたゴミを原子レベルで分解。
汚れをキレイさっぱり落としてから、運転席に戻る。
完全勝利だ。さっさと家に帰ろう。

2日程かかったが、車は無事名古屋に着いた。
実家に帰ればこっちのもんだ。
6億円はそのまんま頂く。
タンス貯金をしよう。
銀行にもやすやすと預けられまい。
税務署に目を付けられてしまうからだ。
赤信号で待機中、警察車両が通り掛かったので焦ったが、ターゲッ

トは他のスピード違反車両だった。
セーフ。
そんな事をしている内に、青色の光が一斉に点灯した。
青信号だ、進もう。

「ハルちゃんおかえり、大学はどうしたん？」
「今日は授業がないんやで、ちょっと帰ってきただけや」
「あーそうかい、それならええんやけどな」

実家に帰り、部屋に段ボールを運び込む。
勿論これは例の金だ。
暫くこの家に置かせて貰うことにする。
だがその事は伝えない。
騒がれても困るからだ。
屋根裏に上がり、現金の入った段ボールを隠す。
[見つけても騒がないように、息子より]
というメモを貼り付けておいたので、多分大丈夫だ。
しかしこの金はそのままは使えない。
レストランとかで豪遊とかなら問題ないが、高級車や家など、名義が必要な物を買おうとするとまたもや税務署に目を付けられてしまう。

金の出処が不透明なのだ。
だからあまり大々的に使う事が出来ない。

ビットコインも簡単に足がつくし、困った。
これでは派手に遊べない。
足がつかない様な所でしか金を使えない。

チェッ、税金をケチったツケが回ってきたな。

第7話

終電の時間はとっくに過ぎているので、
今日は実家で過ごす。だがここに居ても暇だ。
何か面白いことは無いか……　ハッ！
ふと閃く。
原子操作で地下室を作って、何か悪い事をしよう。
思い立ったらすぐ行動。
「原子操作、地下へと続く穴を開けろ」
言葉と共に、コンクリートの床に幾何学的な穴が開く。
深さは5メートル、イメージ通りだ。
「原子操作、はしごを制作」
床に転がっていた鉄パイプが曲がり、梯子を形作る。
穴に引っ掛けたら通路の完成だ。次行こう。
「原子操作、地下室を掘りぬけ」
直方体の地下空間を形成する。補強用の柱は４本。
ライトを当て、掘り抜けていることを確認。よし。

床や壁の凸凹を均し、照明をポン付けしたら完成。
少々暗いが、問題はない。

さあ次は何をしようか？
ここなら誰も来ない。完全な密閉空間だ。
少々危険な原子操作術の実験でもしようか。
ちょっぴり違法な事も出来る。

「原子操作、ＲＤＸ高性能爆薬を生成」
極微量の爆発物を合成、爆破実験を行う。

火の着いた木の棒をそれに近づけて…　爆破。

ドゴオオオンッ!!
耳をつんざくような轟音が轟く。
地下空間なので爆音はかなり軽減され、
地上では殆ど聞こえてないだろう。
仮に聞こえてても・・・ 苦情は受け付けません。

とにかく、爆薬も作れることが分かった。
これなら一気に作れるものが増える。
手榴弾でも機関銃でも、武器一般は何でも作れる筈だ。
使う気は無いけど。念の為に、だ。

取り敢えずピストルを一丁。
有名どころなら検索すれば図面ぐらいは出てくるはず。

［Ｇ１８　ＣＡＤ］で検索すると、詳細な部品の寸法データが出てきた。ほらやっぱり。

パソコンを取りに実家に戻る。

「母さんさっき変な音聞こえなかった？」
「音？どんな音かしら？」
「いや、何でもないよ」
防音はしっかりとされているみたいだ。
それは良いとして、取りあえずはパーツの整形をやろう。
ステンレスのパイプを幾らか頂戴してきたので、
その純度を高めてから整形する。
Ｇ１８（グロック１８）は法執行機関向けの特殊拳銃だ。
銃社会のアメリカでもこれは市販されていない。
そしてこの拳銃にはフルオートモードが存在する。
閉所での戦闘で非常に役に立つだろう。
使用弾薬は９×１９ｍｍパラベロム弾。

装填数は１８発と、弾倉の容量も大きい。
弾は・・ 真鍮と鉛が必要だ。
鉛は家の釣具からパクるとして、真鍮はねぇ・・・
ドアノブから分けてもらおう。

弾薬の試作品が完成した。本物そっくりだ。
拳銃も主要パーツは完成した。
どれも寸法通りに作ったから、ちゃんと動くはず。
「原子操作、銃を組み上げて」

パーツが宙に浮き、結合し始める。
ガチャガチャと音を立てて、１つの武器が完成する。
グロック１８、フルメタルバージョンだ。
表面は黒色のスプレーで塗装、高級感を醸し出す。
銃身内部にはクロムメッキを。腐食対策だ。

弾倉に弾を込め、地下へと向かう。

壁に狙いを付け、引き金を引く。
ドオオオンッ！
反動で腕が押し返される。
壁には鉛弾がめり込んでいた。
つまみを回し、射撃モードを連発に切り替える。
発射。

ドドドドドッ!!
連続する爆音。
一秒もしない内に弾倉の弾をすべて吐き出した。

空薬莢の転がる音。硝煙の匂いが立ち込める。
凄まじい連射速度だ。腕が痺れる。
こりゃ発禁になるわ。危なすぎる。
反動が強過ぎたせいで、弾はかなりバラけていた。
内３発は天井に当たっている。
使いこなすには相当な訓練が必要だ。

第８話

その日の朝。ある程度の金を持って電車に乗る。
大体３００万くらい。
財布には収まらなかったので封筒に入れた。
このくらいなら持っていても怪しまれないだろう。
通勤ラッシュの後なので電車の席はガラガラだ。
非常に気分が良い。
うとうとしながら車窓を眺める。
人生イージーモードだ。
あれだけの金があればもう何にも困らない。
非常に気が楽である。
昨日の夜は税務署にバレないラインを考えた。
そして導き出されたのは、３００万の境界線。
３００万以下なら、多分お尋ねの連絡は入らない。
もし疑われても、タンス預金と偽れば乗り切れるはず。
劣化の酷い廃屋を買い上げるには十分過ぎる金だ。
値段も付かない程無残な家を購入し、原子操作で改装、そして新築と見間違うような家にしてしまえば良い。

「ゲヒャヒャヒャッ！」
笑いが止まらない。
税務署の人たちには申し訳ないけど、
税金は殆ど取れまちぇーん。
残念でしたー。

電車で一人笑いする気持ち悪い奴になってしまったが、幸い周りに人は居なかった。セーフである。
家を探そう。
なるべく劣化が酷くて倒壊寸前の家を。
該当する物件はそう少なくない筈だ。

その前に、家のデザインを。
自分は建築士の資格を持っていないが、日本国において法律上、改装工事で特定の資格は要求されない。
これを利用する。
いやー悪いね。
シートで覆ってしまえば外からは見えないからね。
中で超能力使ってもバレないからね。
それじゃ、売り物件を探しますか。

手数料込みで１９５万円、２階建て倒壊寸前の物件を見つけた。
どうやら施工業者が悪徳だったらしく、施工から５年足らずで傾き、雨漏りが発生したらしい。

築２５年、壁はカビだらけ、庭は雑草祭り。
オマケにネズミ、白蟻の発生。
これらの要素が絡んで買い手が全く現れないらしい。
だがこちらからするとただの良物件だ。
立地も悪くない。

行政に強制執行される前に買い上げよう。
そう決意してから、仲介業者に電話を掛ける。

相手はすぐに出た。
「はいこちら原田不動産です」
「購入したい物件があります、あの１９５万円のです」

単刀直入に話を進める。
前置きは必要ない。
「えー少々お待ちください、・・ ええ、畏まりました、カタログ番号２７番の物で間違いないでしょうか？」

「えー、はい間違いないです、あ、引き渡しにはどれぐらいの日数が掛かりますか？」
「約一週間ですね」
「それは良かった、すぐ向かいます」
「はい、お待ちしております」

電話が切れてまもなく、電車のドアが開く。
しかし権利書を仲介業者が押さえてるのには驚かされた。
借金の抵当とか、そんな感じなのかしら。
後はさっさと家をリフォームするだけ。
写真で見た感じは普通の建て売り住宅っぽかったし、
そんなに変な造りでは無いだろう。
まあ詳しい書類手続きは全て司法書士に丸投げしよう。
そういうのはめっぽう苦手だし。

第9話

「おう早ちゃん！久しぶりだなあ」
「あ、いっちゃんじゃねえか、久しぶりっ！」
駅で中学時代の友達、市原とばったり出くわした。
彼は当時かなりのワルだったが、今はちゃっかり名門大学に通っている。彼とは今でも連絡を取り合う仲だ。
「今度また飲みにでも行こうぜ！俺は結構暇だし」
「俺は最近かなり忙しくてなぁ、あまり時間が取れねえんだよ」
「マジかよ、何かあったのか？」
市原は怪訝な顔をして言った。
コイツはかなり頼りになる。
人の悩みを真摯に受け止めてくれる奴だ。
情報を勝手に漏らしたりもしないだろう。
だが申し訳ない。今は言えないんだ。
「済まない、今は言えない」

市原は何かを察したような顔で言う。
「・・・ 分かった、深入りはしないでおこう」
「話せる時が来たらまた話すよ」
「ああ、何時でも良いぞ、あ、それと」

「何だ？」
「うちの大学に新型のスパコンが入ったんだ、良かったら見ていくか？」
「聞いたことないな、んでその性能は？」
「スパコン京に勝るとも劣らない程だ、俺ら学生の誇りだよ」
「はえー、それは凄い・・・ 名前は？」
「ＴＳＵＢＡＭＥ３．０って言うんだ。ま、気が向いたら来いよ」
「分かった、近いうちに行くよ」

「おう、じゃあな」

市原と手を降って別れる。
なるほど、スパコンか。
俺の家にも欲しいものだが、生憎そんな金はない。
もしかすると原子操作で作れるかも知れないが、膨大なアルゴリズムを組んでいる時間は無いのだ。
そんな事を考えながら駅のホームを後にする。
今から俺は不動産会社に向かう。
事務所はこの近辺にある筈だ。
さっさと面倒事を済ませるぞ。

市原不動産と書かれた事務所のドアを開ける。
上は司法書士の事務所だった。

ガラス戸が開き、鈴が鳴る。
「本日はどのようなご用件で？」
「先程電話した者です、例の土地を購入しに来ました」
「かしこまりました、書類はこちらになります」
2、3枚の書類を渡される。
「こちらにサインをお願いします。それ以降の詳しい手続きは、司法書士の方に任せるのが一般的ですよ」
「えーつまり、国に申請する書類のことですか」
「その通りです、上の階に司法書士の方がおられるので、その方にご依頼されてはいかがでしょう？」
なるほど、だから事務所が隣だったのか。
確かに司法書士も、不動産屋の隣に事務所を置いておけばその手の依頼で溢れかえるだろう。実に良く考えられている。
「それじゃあ上の階の人にお願いしておきますよ」
「かしこまりました、それではお呼びしておきますね」

不動産屋に１９５万、司法書士に８万を払い、後の手続きを全て丸投げしてきた。
権利証は一週間くらいで発行される。
つまり俺には一週間の準備期間が与えられたのだ。
その間に素材を調達しよう。
大量の鉄筋にセメント、木材。
輸送には大型トラックが必要だ。
運転免許が無いので業者に頼もう。
買った廃墟は鉄筋造りらしいが信用ならないので、分厚い鉄筋コンクリートで作り直す。軽い砲弾くらいなら止められる。防音にも効果てきめんだ。
断熱材は自前で合成しよう。
高性能な物を思う存分に使ってやる。
外壁は白塗り、窓ガラスには防弾ガラスを採用する。
ガラスの生成はあまり上手くいかないので、渋々アメリカから輸入する。
ガレージも作る。普通車が一台入ればそれで良い。
敷地には柵を設置しよう。鋼鉄で足の掛け場のない柵を。
庭には適当な花でも植えて、それっぽく飾ろう。
それから地下室。
違法な実験をする為に地下３０メートル付近まで掘りぬいて、そこに巨大な秘密地下室を作る。今回家を買った真の目的でもある。
直通通路として、螺旋階段を設置しよう。
近いうちに電源設備も欲しいところ。

計画を立てておく。想定される材料費は５０万前後。

鉄筋に至っては相場で1トン8万円くらいだった。
こうして材料費を計算してみると、今までどれほど施工業者に金を取られていたかが良くわかった。全く恐ろしいものだ。
それから俺は購入した廃墟に向かった。
劣化は写真で見たよりかなり進んでいた。
壁にはツタが生い茂り、地面は雑草地獄。
いかにも虫が湧いていそうな場所だった。
吐き気がする。
だがまずは草刈りから始めよう。
そして俺は芝刈り機を持っていない。
となると、打つ手はただひとつ。

「原子操作、ここの土壌から全ての炭素を奪え」

有機物の基本骨格をつくり、すべての生物の構成材料として、光合成など生命活動全般で重要な役割を担う炭素。
生命はわずかな炭素をかき集めて、
かろうじて生き長らえている。
だが無慈悲にも、それを全て奪い去る。
待つのは全面的な死のみ。
全ての生物、植物が死滅する禁じ手だっ！

術式は放たれた。
突然の突風で、おびただしい数の草が飛ばされる。
変色した草は次々と隣家に命中。
枯れている。素晴らしい。最高の除草技術だ。
邪悪な虫どもも即死は必至。
さっさとくたばるが良い。
今度は劇薬を散布するぞこの野郎。
更に風が吹き、ツタがブチブチと切れ落ちる。
フハハざまあみろ。思い知ったか。

第10話

玄関の鍵を開け、ドアを引く。
幸いにも鍵穴は潰れていなかった。
だが中には惨状が広がっていた。
埃に傷に大型害虫の死骸。
まさにこの世の終わりだった。
慌てて家から飛び出す。
虫が苦手な人間からすると卒倒レベルだ。あれは。
もう我慢ならん、火炎放射器を持ってこよう。
ナパーム剤を用意したい衝動に駆られたが、何とか抑える。
そんなことバレたら洒落にならない。
何か他の方法は無いのか・・・
そうだ、毒ガス戦を仕掛けよう。
神経ガスをばら撒くか・・・・

いや、それはもはやテロだ。
いや待てよ。
原子操作、もしかしたら原子の温度もイジれるかも。
もしそれが可能なら強化版火炎放射器が使える。
実験だ。

草の残骸に狙いを定め、原子操作。
「水分子の温度を１５００度に」
ボッ。草は音を立てて発火。
一瞬で燃え尽きる。
これはイケる！
「水分子の温度を１５０００度に」
ジュッ。
草は消滅した。素晴らしい。
この理論で家の中の不届き者を殲滅する。

脳内議会、賛成多数により可決。
文字通り消し去ってくれるわ。
「原子操作、１５０００度の業火を喰らわせろ！」

範囲は家の中の不届き者全員。
絶対に逃さない。

ジュッ。
瞬間、壁のツタが跡形もなく消え去る。
あれは完全に巻き添えだ。
壁のコケも消え去った。
これは期待できそうだ。
ドアを開けると、中には何かが焦げた跡があった。
奴だ。国民的害虫。想像するのも恐ろしい。
しかしこの物件が売れなかった理由がよく分かった。
蓋を開けてみればただの地獄だったし。
全く、震えが止まらんわい。
権利書が出来次第、さっさと改装しよう。
こんな所になんか住みたくないわ。
撤収。
帰り際、置土産に大量のバルサンを投入した。
多分全滅したと思うが、一応、だ。
気持ちの問題である。
後々頭にきたので、庭の草を焼き払っておいた。
土壌も改良。養分を取り除き不毛の大地にした。
これには砂漠もビックリ。
少なくとも１０年は草が生えないだろう。
ふへへ、ざまあみろ。
全ては俺をビビらせた害虫が悪い。
土地の権利書を手に入れた時がお前の最後だ。
可及的速やかに解体してやる。

悦に浸りながら廃墟を後にする。

時刻は昼過ぎ。
そろそろ飯時だ。
学食を食いに行こう。

食堂にて大西と出くわした。
「早川くん、最近授業出てないよね」
「ちょっと忙しくてね・・」
「早川君が講義を休むなんて珍しいから気になっただけだよ。それより見たかい昨日のニュース」
「ニュース？最近あんまり見てないなぁ、何かあったの？」
「インフルエンザの患者が確認されたらしいんだ、今年のはかなり症状が重いって」
「えーもうその季節か、マスク買わないと」
「アルコールをまた買い溜めないといけないや」

今年も遂にその季節がやって来たか。
例の術さえあれば防げそうだが、
念の為にマスクは買っておこう。
まあいいか。
それより、今後の計画を練ろう。

今後の計画。
まずは家の改装、引っ越しだ。
それから金属資源の確保。

この術は素材が無ければ輝かない。
何か適当なペーパーカンパニーをでっち上げよう。
法人名義なら、大量のレアメタルを買い付けても怪しまれないだろうし。
それが無理なら密輸ルートの確保。
潜水艇ぐらいなら作れるだろう。
複雑な構造計算も、大学のシュミレーションソフトをお借りすれば難なくこなせるだろうし。
対潜ソナーが配備されてない場所で行動すれば良し。
だが少なくとも潜水艇での越境は危険だ。
対潜哨戒機にバレてしまう。
香港の件も2回目はないかも知れない。
爆雷でも投下されたら即死は必至。

「早川くん、何考えてるの？」
「いや、何でもないよ」
「そう？てっきり悩みがあるのかと」

「あ、そういえば大西さん」
「何？」
「大西さんの親御さん、確か廃品回収業者だったよね」
「ええ、そうだけど、それがどうかしたの？」
「リサイクルされる集積回路を買いたいな、ちょっと試してみたいことがあるんだ」
「べ、別に良いけどそれでどうするつもり？」
「貴金属の精錬実験だよ」
「ああ、そういう事ね、なるほど、それなら協力するわ」
「そこでだ、ここに２０万円ある、これで買えるだけの廃棄ｃｐｕを買って来て欲しい、日時は明後日までに、家の住所を教えるから配送を頼みたい」
「２０万!?わ、分かったわ、パパにお願いしてみる」

「よろしく頼むよ」

これである程度の貴金属、特に金、銀、パラジウムを確保できた。術を使えば精製効率は１００％と言っても過言では無いので、基板の貴金属を通常よりたっぷりと手に入れる事ができるはず。
現金に変えても良し、貴金属として利用するも良し。
無くても良いが、あるのに越した事はない。

それと同時進行で、大量のスクラップメタルを調達する。
地金である必要は全く無い。
全て術にかけて分離するからだ。
アイツらにとってはゴミの山かもしれないが、
俺にとっては宝の山だ。
ただ鉄鋼は業者から仕入れる。
鉄はその方が安いし効率が良いからだ。

ターゲットは非鉄金属。
特に高価な類のものを狙う。
だが、まずは鉄の買い付けからだ。
鋼鉄の相場は１ｔ辺り約８万円。
仲介業者に金を取られる分も考えると大体１０万円。
そして今必要な鉄鋼の量は大体１０ｔ、
多めに見積もって１２ｔ。
費用は合計１２０万円ほど。
さっさと商社に電話しよう。
それから輸送車両の確保。
実家の車では一度に運べる量などたかが知れてる。
もっとデカイの、もっとパワフルなのが欲しい。
車検を通った安い大型車を買おう。
いや、レンタルでもいい。
燃費は不問、力さえあればそれで十分。

こちらもさっさと確保しに行こう。

第11話

防護服を身に纏い、草を掻き分けゴミ山を漁る。
辺りには大量の家電製品が棄てられていた。
かなり古そうだった。

「原子操作、鉛を分離、引き寄せろ」
黒い粉塵が舞い上がり、やがて1つの塊となった。
粉塵の発生源は勿論ゴミ山の中。
恐らく鉛バッテリーでも捨ててあったんだろう。
にしてもこの量は凄い。軽く１００ｋｇはありそうだ。
ここ一帯の鉛は全て回収したか。
次行こう。

「原子操作、硫黄原子を回収」
粉塵が惹かれ合い、１つの黄色い塊が形作られる。
どうやら鉛バッテリーに使われていた硫酸が更に分離され、硫黄になったみたいだ。こちらも車の荷台に積み込む。

「ネオジム、クロム、ニッケルを回収」
今度は一気に3つを回収。
いずれも銀白色の重金属。
特にネオジムは近年価格が高騰している。
一瞬で3種類の金属塊が出来上がった。
クロム、ニッケル、ネオジムの順に量が採れたので、
こちらも荷台に詰め込む。
次。

「銅を回収」
瞬間。
想像を絶する量の粉塵が吹き上げられた。
恐らく電熱線やケーブルに使われていた分だろう。
嵐が収束すると、巨大な銅塊が姿を表した。
とても持ち帰れる量ではない。

荷台に詰めるだけ詰め込んだが、もう限界だ。
一度置きに帰ろう。いや、その前に。

「金、パラジウム、プラチナを回収」
貴金属類を頂く。
だが期待よりその量は少なかった。
合計して大体２０グラム程。
くだらない。
とにかく、めぼしい物は全て持ち帰る。
どうせお前らは使わんだろうし。
銅を全て運び切るには４往復くらい必要だろうな。
権利書の発行まであと３日程。
それまでに出来る事は全てやろう。
鉄鋼も明日には届くはずだし。改築の日が待ち遠しい。
建材のコンクリート砕石は既に調達済み。
敷地内に野ざらしで放置している。
家の改築は真夜中、暗闇に紛れて実行する。
暗視装置でも使わない限りバレないだろう。
それから防弾ガラス。
アメリカからの直輸入。大体全部で８０万ぐらいしたはず。
大体あと一週間ぐらいで届くはず。続報を待とう。

プルルルッ！プルルルッ！
突然電話が鳴る。
発信元は大西だった。
「はい」
「早川さんでございましょうか？」
中年成人男性の声がした。恐らく大西の父親だ。
「はい早川です」
「こちら大西廃品回収です、ご要望の品物を用意出来ましたので今からそちらへ伺ってもよろしいでしょうか？」

注文は通ったみたいだ。これは好都合。
「私の我儘を聞き入れて下さったのですか!?」
「我儘なんてそんなとんでもない！良いビジネスチャンスです、こちらもそれにあやからせていただく次第ですよ、それではまた後でお会いしましょう」
「ええ、有難うございます、それではまた後で」
ツーッ、ツーッ。
電話が切れる。
これはラッキー。
取り敢えずマンションに帰ろう。
貴金属が楽しみだ。

マンションの入り口に、スーツを着た中年の男が立っていた。
その近くには見慣れない車と、作業服を着た若者が居た。
「初めまして、早川と申します」
声を掛ける。
「こちらこそ初めまして、いつも娘がお世話になっております」
さっき電話越しに聞いた声だ。
「いえいえこちらこそ、今日はよろしくお願いします」
「はい、それでは本題に入りましょう、２０万円相当の廃棄ｃｐｕをお持ちしました、こちらです」
ビジネスバッグから電子機器か姿を表す。
「こちらが廃棄ｃｐｕのサンプルになります、大体１ｋｇで７０００円辺が相場です、品質はこちらで保証しましょう」
ｃｐｕ、パソコンの心臓部だ。
恐らくこれからリサイクル業者に出す予定だった物を、急遽こちらに回してくれたのだろう。有り難い。
「分かりました、相場の価格で買いましょう」

「１ｋｇ７０００円で取引ですね、有難うございます、それではこちらの書類にサインをお願いします」
一枚の紙とペンを渡され、契約書にサインをする。
「・・・ はいＯＫです」
「有難うございます、それでは従業員に持ってこさせますので、もう暫くお待ち下さい」

段ボール箱が車内より運び出され、台車の上に置かれる。
台車はエントランスまで運ばれ、エレベーターに載せられ６階まで輸送され、最後には部屋に運び込まれる。
「お忙しい中有難うございました」
「いえいえこちらこそ、それでは失礼します」
作業員が帰っていく。
玄関ドアを締めてから中身を確認する。
大体４０ｋｇくらい。
段ボールを開けると、中にはびっしりと廃棄ｃｐｕが敷き詰められていた。
貴金属の匂いがプンプンする。
やった。さあ原子操作。
「原子操作、金、銀、パラジウムを分離」
集積回路の板が、まるで入浴剤のように散り散りになり、やがてそれぞれ金属塊を形成する。
測りで測ると金は４００ｇ、銀は１，８００ｇ、パラジウムは８０ｇ程集まっていた。
スクラップの仕入れ値は２０万円。
金の相場は１００ｇで大体６０万。
金だけでも大儲けだ。
元が取れたという次元ではない。
だがこれは大切に仕舞っておく。
現金は腐るほどあるのだ。

第12話

時は来た。今は夜2時。
権利書を入手したので、さっさと家を建て替える。
その為の技術実験などは一応一通り済ませてある。
さっさと片付けよう。
「原子操作、静かに家を解体」
音も無く屋根が消滅し、粉塵が吹き上げられる。
舞い上がった粉塵はそのまま何処かへ飛んでゆく。
「原子操作、骨組みを形成、図面通りに組み上げろ」
資材置き場の鉄筋が中に浮き、その形を変える。
鉄骨は家の重要パーツだ。
これがあるのと無いのとでは全然違う。
あっという間に骨組みが完成。次行こう。
「肉付け、コンクリートで壁を築き上げろ」
山積みのコンクリート砕石が形を変え、
骨組みを飲み込んでゆく。
あっという間に歪み無い外壁が出来上がった。

「原子操作、白色塗料を壁に塗れ」
ペンキ塗りは塗料自ら行ってくれる。
ムラ一つない完璧な仕上がりだ。
「原子操作、庭を舗装、コンクリートで固めて」
土壌は完全に潰す。これなら雨の日でも安心。
「原子操作、水道を再度繋いで」
最初に消し飛ばしたであろうインフラを再接続。
各種メーターは前の家から剥ぎ取った物を再利用する。
次は内装。
「原子操作、内壁を整備」
遮音性に優れた内壁、フローリングを整備。
モデルハウスをイメージしたデザイン。

床は黒、内壁は白色で統一した。
その方が高級感が出る。

「原子操作、電気配線を整備、図面通りに頼む」
予め用意した膨大な長さのケーブルが宙に浮き、壁にめり込み、そして電気回路が組まれる。一部は昇圧回路を組んで電圧を上げておく。

次。

「水道を整備、元栓はまだ開けないで」
塩ビ管を引いて水道を整備。
もう必須インフラは使える。

次。

「浴槽を整備、こいつを運び込んで」
セラミックス製の大きな浴槽を配備。
シャワーも運び込んでパイプと繋げる。
自家製。デメリットはお湯が使えない事だけだ。
いや、結構被害が大きいか。それは。
毎日凍えなければならない。
冬に至っては地獄そのものだ。
後はセラミックスのタイルを貼って浴室は完成。
ドアは防水仕様。
全力で水攻めしても一滴たりとも通さない。

「原子操作、家具とかを全部運び込んで」
ステンレス製の玄関ドアが開放され、
荷台に満載した家具が屋内に吸い込まれる。
照明類も全て設置。
電気屋でまとめて買ってきたのだ。

「エアコンを設置、４台全て運び込んでー」
機材が宙に浮き、ひとりでに壁に張り付いてケーブルが組まれる。
室外機もいつの間にか設置されていた。
これで作業は終わり。新築一戸建ての完成だ。

家の外観は前の廃屋とあまり変わらない。
隣人に違和感を覚えられても困るからだ。
多分、壁を塗り直したとでも勘違いするだろう。
「点灯」
真っ暗だった屋内に、暖かな光が灯される。
モデルハウスよりも良い見た目に仕上がった。

だがこれからが本番だ。
「深さ３０メートルの穴を掘って」
床に幾何学的な穴が空き、螺旋階段が形成される。
地下へと続く道だ。
内壁は強化コンクリートで分厚く固める。
更に、地下へと高圧電流を運ぶ電線が敷かれる。
螺旋階段はオールステンレス製。
崩落はあり得ない。
１分もしない内に、巨大な地下階段が出来上がった。
次。
「地下空間を形成、支柱を図面通りに配置せよ」
音もなく地下に巨大な空間が現れる。
そしてその空間はあっという間に広がり、
気が付けば家がすっぽり収まる程にまで拡大していた。
内壁は超高圧に晒された天然の岩石だ。
かなりの硬度を保持している。
少なくともコンクリート以上の。
術を使って岩を圧縮し、空間を切り開いた副産物でもある。
後は金属資材を持って降りるだけ。
「原子操作、鉄筋をここまで運んで」

地上の鉄鋼を操作、地下まで運び込む。
時刻は朝の４時。そろそろ日が昇り始める頃だ。

これにて一連の作業は終了。
徹夜作業だったし、今日はもう寝よう。
全高３０メートルにも及ぶ螺旋階段を昇り、地上に出る。
「原子操作、床を修復」
穴の空いたフローリングを修復、元通りに直す。
施錠された玄関ドアにチェーンロックを掛ける。
バスルームに入り、蛇口をひねる。
シャワーヘッドから出てきたのは冷水。
凍えながらも頭を洗う。
シャンプーは取り敢えず高そうなのを買った。
元々貧乏性だったのでこのような物を使う機会は無かったのだが、
今は金だけは大量にあるので惜しみなく買った。
かなりいい香りがする。悪くない。
ボディソープも同系列のものを。
シャンプーと似たような匂いがした。
体を綺麗に洗ったら、浴槽に冷水を張る。
それから術を使う。
「原子操作、水の温度を３９℃に」
湯気が出る。
手を突っ込んでみたらいい湯加減だった。
浴槽に体まで浸かる。
リラックスタイムだ。
今日はかなりの進捗があった。
こうやって家を建て替えて、地下室まで作った。
将来的にはここを拠点として活動しよう。
だが勿論、公安には用心しなくてはならない。
この能力がバレたら確実に利用される。
強硬策で来るかもしれないし、こちらを懐柔しようとしてくるかも知れない。
だが少なくとも、放ってはおいてくれないだろう。

そのためには、能力を秘匿するのが一番だ。
バレなければこちらの勝ち。
バレたら向こうの勝ち。
反抗しても武力でねじ伏せられる。
こちらには今拳銃しかないのだ。
Ｇ１８マシンピストル。
いくら高性能とはいえ向こうには装甲車がある。
肉弾戦での勝ち目は無い。

階段を昇り、寝室へと向かう。
有り余った金で高級な寝具を買っておいた。
寝心地も良さそうだ。
カーテンにドアを締め、外の光を遮断する。
ベッドに入り、明日の事を考える。
明日は武器の密造をやろう。
せめて機関銃は欲しい。
そんな事を考えながら眠りにつく。
いつ公安に狙われるか分からないので
枕元に拳銃を置いて寝る。
引き金さえ引けば何時でも発射できる。
そんな安心感に包まれ、まどろみの中へ。

第13話

「原子操作、素材を変形、図面通りに曲げて」
パソコンを見ながら術を唱える。
鋼は機関部に変形し、硬質な樹脂は銃の外形を形作る。
フランス製、ＦＡ―ＭＡＳ自動小銃。
フランス陸軍の正式装備でもある。
そして使用する弾薬は、５．５６×４５ｍｍ弾。
この弾は人体などの軟組織に対しておよそ３８０―５００ｍｍの貫通力を保持し、命中時、弾頭下部の環状溝のあたりで割れ、断片は軟組織の内部を傷つけながら散らばる。
当然防弾チョッキなど無力。確実に貫通する。
公安がどんな装備かは知らないが、これなら確実だ。
「原子操作、激発用火薬、発射薬を精製、弾を作れ」
真鍮と鉛の地金が形を変え、薬莢と弾頭を形作る。
小さく複雑な雷管が形作られ、薬莢下部に接合される。
発射薬が薬莢に入り、
更に上から弾頭が押し込まれ、銃弾が出来上がる。
あっという間に８０発。
弾薬は弾倉に収まり、弾倉は銃本体に差し込まれる。
射撃実験だ。

地下空間にベニヤ板の的を置き、狙いを付けて発射。
引き金を引くと小気味のいい破裂音と共に穴が空く。

セレクターをフルオートモードに切り替え、再び発射。
連続する破裂音。
弾倉の弾を半分以上吐き出し、銃は止まる。
立ち込める硝煙の匂い。
ベニヤ板は蜂の巣と化していた。
弾は板を容易に貫き、硬い地下の壁に食い込んだ。

威力は十分。
筆舌に尽くし難い程だ。
それから・・・ 光学照準器。
アメリカ製の民間向け光学サイトを取り付ける。

８万５０００円。
ネット通販で買った。
アメリカ、イオテック社の正規品。
レプリカでは無い。実物だ。
重量感のある照準器。レンズが破損しても全く問題ない。
電源を入れてサイトを覗き込む。
光の屈折を使って正確に追い続ける。
そう、目標を示し続けるのだ。
性能に満足したところで銃に取り付ける。
接続用レールなど無いので、樹脂を溶かして一体化させる。
銃が少しだけ重くなった。
だが問題ない。これで素早い照準が可能になったから。
射撃初心者でも、ある程度は戦えるはずだ。

それから手榴弾。接近戦では必要不可欠な物だ。
「原子操作、ＲＧＤ―５破片手榴弾を制作」
ソビエト連邦製。
ＲＧＤ―５手榴弾はライナー付きの破片手榴弾で、爆発するとおよそ３５０個の破片をばら撒く。爆薬は１１０ｇのＴＮＴ。
その殺傷能力は凄まじく、爆心地から半径２５ｍ以内の人間を殺傷し、３ｍ以内の人間を確実に死亡させる程だ。
第二次世界大戦から現代に至るまで、主に東側諸国で広く使われている。

外殻、ピンと共に鋼鉄製。
激発装置には４秒の遅延信管を使う。

これは非常に危ないので地下での実験は到底できない。
確実に破片を食らって死ぬからだ。
それに、恐らく地上に音が漏れる。
この段階で怪しまれるのはあまり嬉しく無い。
確かに、この手榴弾は確実に作動する。
それこそ工場で作られた物より確実に。
だから今これの実験をする必要は無い。
４個程作って地下に隠匿しておくのが良いだろう。

それから防御装備。
こちらは拳銃弾を防げたらそれで良い。
警察は二次被害を恐れて高貫徹弾を使わないからだ。
ネット通販で防弾チョッキを購入した。お値段４万円。
そしてこのチョッキ、トカレフ拳銃弾にも耐えるとの事。
それならやーさんに襲われても安心だ。

制作した装備品をまとめる。
Ｇ１８マシンピストルは内ポケットに忍ばせ、予備の弾倉は３本携帯。防弾チョッキと４個の手榴弾を服の内部に組み込み、違和感を抹消した。
しかしＦＡ―ＭＡＳ自動小銃は携帯しない。
こちらはホームディフェンスでのみ使用する。
隠し持つには大き過ぎるからだ。
流石に無理がある。

装備を身に着けてから鏡を見る。
違和感は無い。後は善良な市民を装うだけだ。
実家に置いた６億円は既に地下に輸送し終えている。
今のところ外に出る用は無いので心配する必要は無さそうだが、射撃訓練だけは欠かさずにやっておきたい。
マシンピストルも安定して当てれるようになりたい所。

手榴弾は近いうちに、ヤクザ事務所にでも投げこもう。
殺傷能力のチェックだ。
全滅させた暁には現金を全てかっぱらってやろう。
ヤクザ相手なら非難はこちらにはむかないだろうし。

そう考えた俺は射撃技術を磨く為、
射撃訓練をする事にした。

第14話

市内のとある建物の前に来た。
ここはいわゆるヤクザ事務所。
こわーいおじさんたちが集う場所だ。
襲撃前、事前に監視カメラの類のものを全て洗い出した。
近くの店の監視カメラの他に、県警の隠しカメラも特定。
それらの死角から侵入し、事務所を襲撃する。
ゴミ共には死んでもらうのだ。
その為にこの3日間、技術を磨いてきた。
物陰から、まずは見張りのチンピラを始末。
ピュンッ！
消音ピストルで頭を撃ち抜く。
チンピラは頭から血を流し倒れる。
一発で即死だ。

異変に気づかれる前にすぐ行動。
ピンを抜き、2階の窓に手榴弾を投げ入れる。
パリイッ！
鋼鉄の悪魔はガラスを叩き割り、部屋に転がり込む。
瞬間。激しい轟音。
辺りに、ガラスの破片が降り注ぐ。
1階の窓も粉々に割れた。
更に2発の手榴弾を投げ込む。
立て続けに爆発音。
更に金品収奪。
「原子操作、金地金をすべて回収」
割れた窓から金インゴットが吸い出される。
1，000gの棒が4本。日本円換算で2000万相当だ。
「原子操作、諭吉を回収」
更に札束が吸い出される。

１００万の束が２３個。合計２３００万円だ。
へへへ、随分と溜め込んでんじゃねぇか。
それらをリュックにしまい、その場から走り去る。
裏路地へと駆け込んだら、覆面を外す。
誰にも目撃されていないから正直覆面は必要なかったが、それでも用心するに越したことはない。
黒服を脱ぎ、原子操作で分解。粉にしてドブに捨てる。
覆面も同じように。

後は電車で家まで帰るだけだ。よくやった。
ニュースで死亡人数の告知が出るだろう。
果たして何人殺れたか、気になるところだ。
金地金も手に入った事だし、これは儲けものだ。
ヤクザ事務所爆破はかなり儲かる。
不穏分子も潰れて一石二鳥だ。

暫くするとパトカーのサイレン音が聞こえてきた。
ここからかなり遠い。とにかく、さっさと退散だ。
裏路地を走り抜け、バスに乗り換える。
中に人はほとんど乗っていなかった。
「次は、警察学校前、次は、警察学校前です、お降りの方はお手元のボタンを押してください」
車内アナウンスが流れる中、バックを確認。
分捕った金地金は合計で４ｋｇ。
更に現金２３００万円。
顔の緩みを何とか抑えながら、俺は降車ボタンを押す。
プシューッ。
折りたたみドアが開く。
「ご乗車ありがとうございましたー」
バス停に降り、走り出す。

警察には十分注意したまえ。
何せこんな大金を持ち歩いているんだから。
怪しまれるに違いない。
まだ慣れない路地を迷いながら進み、
数分かけて一軒の家を見つけ出す。

マイホーム。
生還した、完全犯罪だ。
証拠の類の物は一切無い。
残したのは銃弾と、３発の炸裂した手榴弾のみ。
特定は不可能だ。
興奮醒ぬまま、玄関ドアを解錠し家に入る。
尾行も無し。
素晴らしい。完全犯罪だ。
まあ後は戦利品の整理と行こう。
地下へと潜り、リュックを開ける。
ガチャガチャと音を立てながら金地金を取り出す。
１，０００ｇの金塊が４枚。
三菱マテリアルの刻印付き。
それに現金２３００万。
こちらは札束置き場に転がしておく。
金塊は資材置き場に。

ネットニュースを確認。
速報が入っていた。
「名古屋県内で爆破事件、暴力団組員４人死亡、２人重体」
やった。やはり手榴弾の殺傷能力は一流だった。
思わずガッツポーズ。
今は午後の１時。
目的は達成した事だし、飯でも食いに行こうか。
高級焼肉店にでも行ってみよう。

市内に良い店があったはず。
前では到底手が出ない価格設定だったが、今となっては端金。
ヤクザから掻払った札束を財布に突っ込み、家を出る。

ビル群までバスで移動する。
確かここの２８階だったはず。
高級料亭には今まで縁がなかったが、それも今日までだ。
金を十二分に使わせてもらう。

エレベーターに乗り、２８階を指定。
ポーン。
一瞬だけ重力が強くなり、エレベーターは急上昇。

ポーン。
「ドアが開きます」

目の前に、シックな空間が広がる。
如何にもな雰囲気。
客の身なりも作法も上流階級のそれだ。
見晴らしが良いのもポイントが高い。
従業員に席に通される。
外の見える席に着席。
［当店は黒毛和牛のＡ５ランクの素材のみを使用。
上品で深みがある繊細さにこだわっております。］
お品書きにはそう書かれていた。

「ご注文はお決まりでしょうか」
「それでは、この”厳選赤身と厚切りステーキ”をお願いします」
「かしこまりました、お飲み物はどうされますか？」
「緑茶をお願いします」
「かしこまりました、少々お待ち下さい」

合計１２，５００円だ。
目玉が飛び出るほどの値段。
それはそれは美味しい物が食えるのだろう。

プルルルッ！プルルルッ！
電話だ。発信者は不明。
「はいはい」
「早川か？俺だよ、高校で同じ組の」
「誰だ？」
「野沢だよ、ほら思い出してくれよ、よく遊んだよな」
「あー野沢ね、思い出したわ」
よく分からんやつから電話が掛かってきた。
こう言うのは大体相場が決まっている。
「それでさ、分け入って願いがあるんだけど」
「ちょっと金貸してくんね？実は昨日ＦＸで大負けしちゃってさ」
普通の人間ならここで電話を切るだろう。
だが俺は違う。その負けた額を聞いてメシウマするのだ。
「ふーん、それで幾ら負けたの？」
満面の笑みで額を聞く。
人の不幸は蜜の味。とても美味しい話だ。
聞かない訳には行かない。
「８００万だよ、高額レバレッジかけてたらロスカされちゃってさ・・・」
「ふーん、俺には払えない額だわ、じゃあの」
「ちょっと待ってくれよ！頼む！半分！半分でも良いから貸してくれ!!必ず返すから!!」

正直８００万くらいなら一瞬で出せるが、俺はそんなに甘くない。
他人にただでくれてやる金など無いのだ。
１円たりとも渡さない。貧乏根性が炸裂する。

「で？誓約書でも書くの？」
更に揺さぶる。

「は？俺を信じてないのかよ！」
ほら来た、踏み倒す気満々だ。
だがもう少し遊ばせてもらう。

「書けないならそれまでだ、俺だって貧乏だし」
「お前の親にでも金を借りてくれよ、なあ野沢」

ツーッ。ツーッ。ツーッ。
電話が切れた。
チェーっ。面白くねぇなぁ。
もっと遊び甲斐があったのに。
もっと足掻いて楽しませてほしかった。
非常に残念だ。

そんなことをしている内に肉が届いた。
焼肉定食。白御飯付き。

野沢が８００万の借金ね、メモメモ。
飯の前に楽しみができてよかった。
これは飯が進む。

「ヒッヒッヒッ！」
悪魔の様な笑い声を必死に抑えて俺は、
出された肉を焼くことにした。

たて続けに電話。
今度は市原からだ。
「おー市原どうした？」
「おいやべぇよ、日本円の暴落が起きてるぞ」
電話越しにも興奮が伝わってくる。
「日本円が？一体何があったんだ？」
「分からない、だけど今円の売り注文が殺到してる」
「為替取引か？」
「そうだよ、笑いが止まらねぇよ」
「６００，００ドル買注文した瞬間にドルの価値が爆上がりしたんだ、まだ暴騰が止まらない、大儲けだ、一生遊んで暮らせるぞ」
「いくら儲かったんだ？」
「４，０００，０００ドル以上だよ、まだ増え続けてる、お前にもちょっと分けてやろうか？」
「いや、俺はいいわ、俺も十分儲かった」
「お前も為替やってたのか？」
「いや、マカオでたまたま大儲けしてな」
「マジか！ってヤバイヤバイ！また跳ね上がった！ちょっと切るわ！」
ツーッ。ツーッ。
為替市場はいま大波に飲まれているらしい。
日本円暴落、あまり嬉しいニュースでは無いな。
だがハイパーインフレが起こらない限りは大丈夫。
なんたってこっちには６億円があるのだ。
日銀もそこらへんは頑張ってくれるだろう。
そう楽観的に考え、俺は支払いを済ませる。
「またのお越しをお待ちしております」
金は余ってるし、ついでに衣服も買うことにしよう。

下階のデパートにでも寄って行こうか。

第15話

デパートで服を5、6着買った後、タクシーに乗り帰宅する。
あの後再び市原に電話したが繋がらなかった。
何故だろう。いや、ただ忙しいだけか。
とにかく、家に帰ると鍵を締め、地下に潜る。
最近の習慣だ。地下にいる時が一番落ち着く。
誰にも狙われない。
地下にはそういう保証があるのだ。
日課の射撃演習。
自動小銃を担ぎ、ベニヤ板を撃ち抜く。
ここ最近命中精度が上がった。

パンッ！パパパンッ！
狙いは外れない。
下手な軍人より上手いかも知れないな。
そんな事を思いながら弾倉を交換。
空になったマガジンを外し、新しいのを差し込む。

プルルルッ！プルルルッ！
電話だ。
発信者は市原だった。

「早川っ！ニュースを見ろ！やべえぞっ」
「何があったんだ？」
「東京でエボラ患者が出たみたいだ、洒落にならねぇ」
「はあっ？嘘だろっ!?」

［都内でエボラ出血熱患者、３０代男性が重症］

致死率８０―９０％。
仮に救命できても重篤な後遺症を残す程の凶暴性。
エボラウイルスは８０―８００ｎｍ程の細長いＲＮＡウイルスだ。
他の多くのウイルスと異なり、免疫系を攪乱するデコイを放ち、生体の防御機構をほぼ完全にすり抜けるという特徴がある。
これが驚異的な感染性の高さに繋がっている。また、体細胞の構成要素であるタンパク質を分解することで最強の毒性を発揮する。免疫系を操作して血管を攻撃させ破壊し、肝臓を始めとする全身の臓器を冒して発症者を死に至らしめる。
そのため、エボラウイルスはＷＨＯのリスクグループ４の病原体に指定されており、バイオセーフティーレベルは最高度の４が要求されている。
洒落にならない。流石に笑えない。
これはあくまで推測だが、このウイルスの感染情報が流れたせいで日本円の売り注文が増加し、円安を引き起こしているのでは無いだろうか？
専門家っぽく命名するなら、これはエボラショックだ。

「早川、マスクは買ったか!?消毒液は!?」
「おいおいマジかよ、何もねぇよ」
「あーあ、終わったなお前、しょうがねぇからうちにあるものを郵送で届けてやんよ、ちょっと待ってろ」
「いや、マスクは要らない、多分おれは大丈夫だ」
「馬鹿言ってんじゃねぇよ、死ぬぞお前」
俺には自信がある。
原子操作術でこの場を乗り切る自信が。
プチッ。電話を切る。
そして唱える。
「炭素原子を補集、活性炭を生成」
炭素が掻き集められ、構造が変化。
反応性の高い多孔質状に組み変わる。

「フィルター、吸入缶を作成、生物兵器を完全にシャットアウトできる性能が欲しい」
缶詰のような形をしたガスの吸入缶。
緑色の塗装が施されたそれには、大量の活性炭が詰められている。
更に多重フィルターにより活性炭の逆流を防止、粉末を吸い込まない様にと工夫が施されている。
それが２つ。

「マスクを作成、モデルはＰＭＫ―２」
合成ゴムが生成され、アクリル板が変形。
みるみるうちに形を変え、奇妙な面を形作る。
ＰＭＫ―２、ソビエト連邦製。
このマスクは生物、化学兵器の攻撃下で最低２４時間の安全を保証してくれる。所謂、ガスマスクだ。
マスクは顔を覆い尽くし、ウイルスの侵入を許さない。
性能は確かだ。

「原子操作、マスクを装着」
ベルトが締まり、ガスマスクが顔に装着される。
視界が少し狭くなった。それに呼吸がしにくい。
だがこれで、安全は保証される。
非常時にはこれを付けるようにしよう。
不要な外出も控えて、リスクを下げなければ。
プルルルッ！プルルルッ！
突然の電話。例の業者からだ。
「早川サンですか？例の品、中国から届きましたヨ」
「はい、すぐ行きます」
札束の袋を片手にタクシーを呼ぶ。
目的地は近くのコンテナ集積所。
中国から輸入したレアメタルを受け取りに行く。
とても忙しい。最近は休む間もない。

レアメタルを手当たり次第に輸入しているせいで受け取りや支払い作業に追われて大変だ。
だが稼いだ金は有効に使わなくては。
溜め込むだけでは勿体無い。
そして今回注文したのは３，０００ｋｇのタングステン。
価格交渉の末、諸々込みで６５００万で話がまとまった。
さっさと取りに行こう。
支払いは現金一括だ。中国の仲介業者に直接手渡そう。
関税とかは知らない。そこらへんは向こうで何とかしてくれるだろう。
しかしエボラ出血熱の発生、これは笑えない。
予想を超えたバッドニュースだ。
パンデミックになる前に何か対策を打たねば。